

トップ > 国際 > 高齢者に薬物中毒・依存傾向が拡大

国際

社会・一般

転載ブログ

## 高齢者に薬物中毒・依存傾向が拡大



長谷川 良

中国発の新型コロナウイルスの感染拡散で政治、経済、文化、そしてスポーツなどもたらしているが、犯罪分野でも伝統的な犯罪、家宅侵入窃盗事件やスリなどが激増。オンラインビジネス、詐欺事件が増加してきたことは、このコラム欄でも紹介した。



corrado barattaphotos/iStock

ところで、ウィーンに事務局を置く国際麻薬統制委員会（INCB）は今年25日に公表した「[報告書](#)」の中で、不法薬物の乱用、依存が高齢者層（65歳以上）で増加してきたこと、麻薬中毒による死者の増加、オンラインを利用した不法麻薬取引の拡散を指摘。



プレスリリースによると、報告書は、1) 高齢者の間で不法薬物の乱用が流行、2) 的の麻薬供給、予防、治療サービス分野、そして不法麻薬市場に影響を与えている、ン類や合成オピオイド（鎮痛薬）など薬物過剰摂取による中毒死の増加、医療目的の傾向に懸念を表明、4) アフガニスタンでのアヘン生産への懸念（2019年度世界アヘン生産の約90%を占める）、5) 麻薬関連犯罪に対して法のルールと人権に合致した対応を要求、6) 「世界保健憲章」（1961年）60周年、「同修正条約」（71年）50周年を迎え、その成果などを踏まえ、その普遍的な履行を強調している。

コロナ感染が1年以上続き、コロナ規制で人々は疲れを覚え、精神的にストレスを受的症状を呈する若者たちが増え、日本でも自殺件数で増加傾向が見られる。INCBの報告書は「高齢者の薬物乱用傾向はコロナ禍で合法的な医薬品への需要が拡大してきた。高齢者層の隠れた薬物乱用、依存症、健康、福祉を損なっている」と警告を発し、この流れをストップさせるために加盟国に呼び掛けている。

高齢者が乱用する薬物としては、鎮痛剤、精神安定剤、ベンゾジアゼピンなどだ。2019年時点で65歳以上は約7億人、全人口の9%を占める。2050年にはその割合は約15%に1人が高齢者グループに入ると予想されている。社会の高齢化に伴い、高齢者の薬物乱用は深刻な問題だ。

また、コロナ感染の拡大で医療品のグローバルな供給網にネガティブな影響が見られる。高齢者への治療増加で他の疾患を抱えている患者の治療にも影響が出てきていることなどに医療薬の不足が拡大しないように対策を取るべきだ」と要請。特に、コロナ規制で隔離措置などで多くの人々が精神的、心理的な病に陥り、薬物乱用などの傾向が増加している。

コロナ規制で海外旅行は禁止され、ソーシャルディスタンスで人と人の接触が厳しく、麻薬類による影響は路上での不法麻薬取引、不法麻薬市場に影響を与えている。麻薬類によって麻薬の価格を引き上げている。麻薬犯罪グループはオンライン取引、ダークネットを活用している。

INCBが懸念しているのは、麻薬中毒者の増加が、特に、麻薬の供給、医療機関に利  
イ



,

INCBは年次報告書でカンナビスの合法化には厳しく警告を発している。麻薬類をソフト・ドラッグに分類し、前者の合法化に乗り出す加盟国が増えてきたからだ。

ニューヨーク発の時事電によると、ニューヨーク州は嗜好用大麻の合法化を決めて年間3億5000万ドル（約380億円）の税収確保と最大6万人の雇用創出につながる可。合法化の対象は21歳以上。大麻を担当する規制当局を設立するほか、外出時に（ム）までの所持などが認められるという。米国ではカリフォルニア州を含む14州で

合法化支持派は「カンナビス禁止は歴史的にみても無理だ。人類の歴史で麻薬が扱はなかった。この事実を受け入れる以外にないだろう。現行の麻薬関連法は多くの目に犯罪を生み出すだけだ。だから、強権で取り締まる麻薬対策は限界にきている」に対し、INCBは「大麻の自由化は若い世代に間違ったシグナルを送り、麻薬の拡大がある」と警告し、「麻薬をソフト・ドラッグとハード・ドラッグに分類すること自体には非常に危険な化学成分（カンナビノイド）、例えば、テトラビドロカンナビノール」と指摘し、大麻の自由化は危険だと説明する。

---

編集部より：この記事は長谷川良氏のブログ「ウィーン発『コンフィデンシャル』」記事を転載させていただきました。オリジナル原稿を読みたい方は[ウィーン発『コン』](#)をご覧ください。

 シェアする

 ツイートす

アゴラの最新ニュース情報を、いいねしてチェックしよう！  
アゴラ - 言論プラットフォーム



長谷川 良  
ジャーナリスト

